

外国人児童の体育指導に関する研究

山本 拓美 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 柴田 俊和

キーワード：文部科学省，外国人児童生徒教育，体育指導

I. 緒言

我が国では、「日本語指導が必要な外国人児童生徒の受入れ状況等に関する調査」文部科学省により毎年行われている。平成24年度の調査によると、日本語指導が必要な外国人児童生徒は、前年度より減少している。三重県においては、平成24年9月1日現在、日本語指導が必要な外国人児童生徒は県内公立小中学校に1,519人在籍している。これは、前年度より18人増加となっている。

このような状況のもと、文部科学省や県教育委員会などにおいて、外国人児童生徒教育に関するさまざまな資料やハンドブックが作成されている。一方で、各教科指導に関する具体的内容にまでは触れられていない。そのため、実際の教育現場では教職員が多くの困難に直面している。

そこで本研究では、体育指導に着目し、教職員・外国人児童双方の意見の結果から考察を深め、より良い体育指導を行うために検討すべき事柄を明らかにすることを目的とする。

II. 研究方法

本研究の調査方法は、教職員・外国人児童ともに選択・記述式による質問紙法とする。

調査対象は、三重県松阪市立H小学校教職員12名、三重県松阪市立H小学校4～6年生9名の外国人児童生徒とする。

III. 結果と考察

1) 教師が考える外国人児童の体育指導

「指導（言葉の意味）が伝わっているか」という点、母国では経験のない、もしくはあまり実践されていない種目に関する指導が難しかったという回答があった。

体育授業の中での外国人児童の活躍場面に対して、約半数以上は特に設けてはいない

が、「できる種目についてはみんなの前でやらせる、本人のがんばりや工夫をみんなに伝える。」という肯定的な意見も見られた。

「一外国人児童生徒支援コミュニケーションハンドブック」の使用有無は、約9割が使用していないという回答であった。

2) 外国人児童の体育指導の感想

体育授業で困っていることについて1番多かった回答が、「～ができない」という回答であり、「先生の言っている事がわからない時もある」という回答も見られた。しかし、「友達に分からないところ、困っていること、できないことを助けてもらった。」という回答も多く見られた。児童同士の助け合いにより、体育授業中のつまづきが和らげられていると考える。

IV. まとめ

よりよい体育授業を行うために以下の3点を工夫することを薦めたい。

① 視覚的教材の使用

「言葉の意味の理解」を深めるために、視覚的教材を使用する。

② グループ活動

グループ活動を活用することで、体育授業におけるつまづきが和らげられ、児童同士の良い関係も構築される。

③ 「一外国人児童生徒支援コミュニケーションブック」の使用

有効活用することで、学校生活全般を含め、外国人児童にとって居やすい環境作りにつながると考えられる。

引用・参考文献

三重県教育委員会(2013)外国人児童生徒教育推進のためのガイドラインー外国人児童生徒教育コーディネーターの視点からー